

ファクトブックの作成業務を通して見た 米国のIR業務の一端

大野 賢一（鳥取大学 学長室IR セクション
学長特別補佐（IR 担当））

藤原 宏司（ミネソタ州立大学機構 ベミジ州立大学・
ノースウェスト技術短期大学IR/IE 室）

畠田 敏行（茨城大学 大学戦略・IR 室）



本日の内容



- ・はじめに
- ・BSU/NTCにおけるFact Bookの作成
- ・Fact Book作成に係るBSUと鳥取大学の比較
- ・鳥取大学におけるFact Bookの作成手順の検討

はじめに



ベミジ州立大学のIR オフィスにおいて、実際にファクトブック作成業務を担当した体験から、日本におけるファクトブック作成や活用のヒントについて報告する。また、IR 業務における基礎データ集の位置づけについて考察する。

■BSU/NTCにおけるIR業務

- 通常業務：リサーチ＝95%：5%
- 要求されたフォーマットで、データベースからデータを作り、分析すること。

BSU/NTCにおけるIR業務（例）



Calendar of IR Activities at BSU/NTC

■ 秋学期(8月-12月)

- [10th Day & 30th Day Enrollment Report](http://www.ntcmn.edu/about/institutional_research/)
- LibEd Assessment (BSU)
- [Common Data Set](http://www.bemidjistate.edu/offices/research_effectiveness/)
- [Fact Book](http://www.bemidjistate.edu/offices/research_effectiveness/)
- [Program Data Book for Program Review](http://www.bemidjistate.edu/offices/research_effectiveness/data_books/)
- [Program Indicators Report](http://www.bemidjistate.edu/offices/research_effectiveness/data_books/)
- MnSCU Cost Study
- IPEDS Report (大部分はSystem Officeがやってくれます)
- [Job Placement Report](http://www.ntcmn.edu/about/pdf/placement_rates.pdf)
- [Retention/Graduation Reports \(プレゼンも\)](http://www.bemidjistate.edu/offices/research_effectiveness/pdf/Presentation%20BSU%20Retention%202012.pdf)
- 外部からのSurveyリクエストへの対応 (Local, USAF, US News Online, etc)
- AIRUM Annual Meeting
- Ad-hoc リクエスト: 100件くらい (Fall 2012)



BSUで公開されている主な資料



■ Common Data Set

営利企業からのデータリクエスト（学校の住所、入学選考のポリシー、学生数、リテンション・レート等）に対応するためのデータ集

■ Data Book

学科、プログラム毎の詳細なデータ集

■ Fact Book

学生のデモグラフィックデータをメインとしたデータ集

■ Institutional Research & Effectiveness | Bemidji State University
<http://www.bemidjistate.edu/offices/research-effectiveness/>

BSU/NTCにおけるFACT BOOKの 作成



今回作成したFact Bookは、以下の2つ。

■ BSU: 2015-16 Student Demographic Fact Book

<https://www.bemidjistate.edu/offices/research-effectiveness/wp-content/uploads/sites/53/2015/04/BSU-Fact-Book-2015-2016-v1.pdf>

■ NTC: 2015-2016 Student Demographic Fact Book

http://www.ntcmn.edu/about/institutional_research/_NTC%20Fact%20Book%202015-2016%20v1.pdf

BSU/NTCにおけるFACT BOOKの 作成



実際のFact Book作成作業は、**コピー**

※通常は、バイトの学生が行っている作業です。

■疑問点

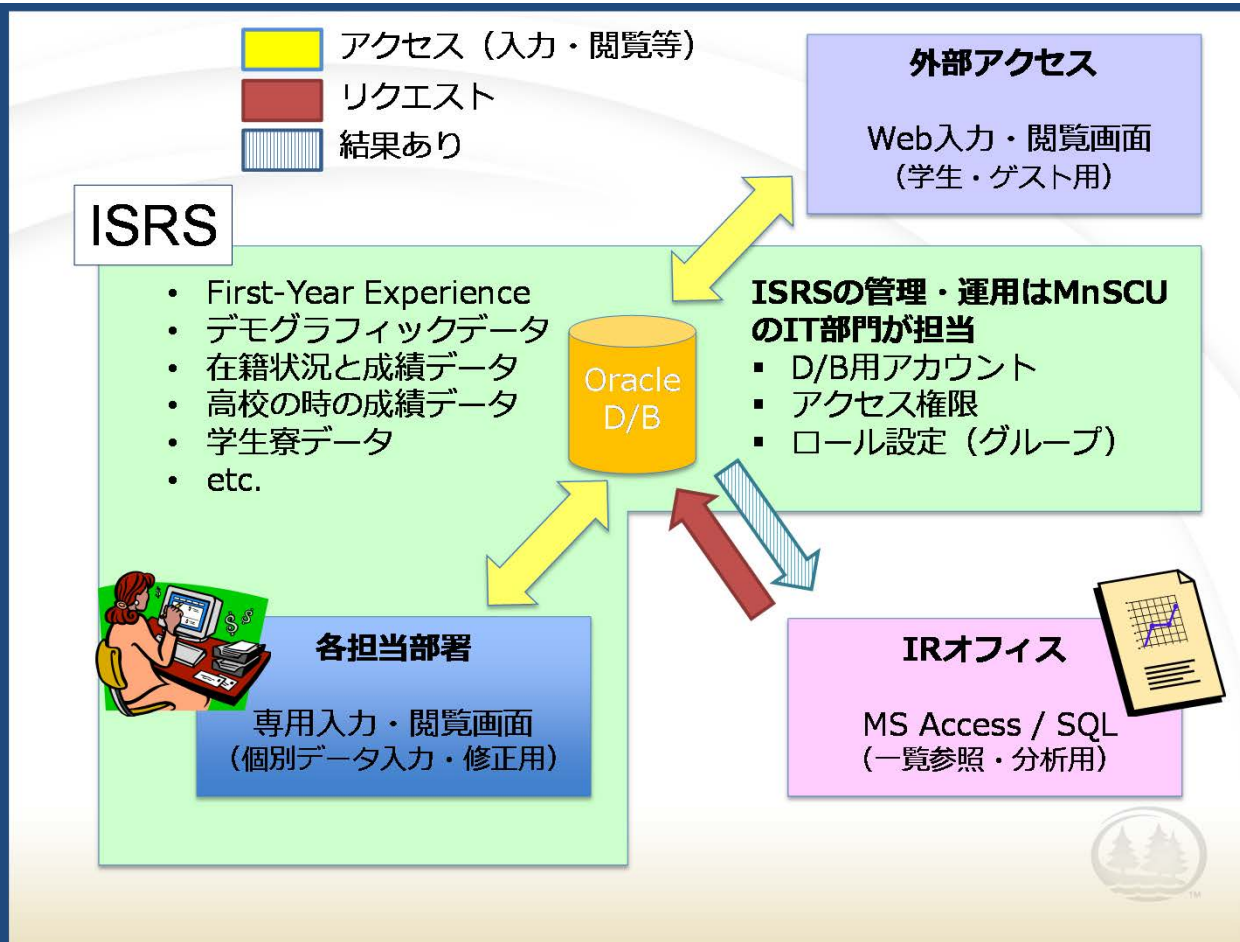
BSU/NTCでは、なぜコピーで
Fact Bookが作成できるのか？

BSU/NTCにおけるFACT BOOKの 作成環境



- ① MnSCUのデータベース（ISRS）がある
- ② MnSCUのITチームのサポートがある
（マスターテーブルのアップデート等）
- ③ ISRSの全てのデータにアクセスできる
- ④ MS Accessでクエリが作成できる
- ⑤ MS Excelでピボットテーブルが作成できる

BSU/NTCにおけるFACT BOOKの 作成環境 (①及び②)



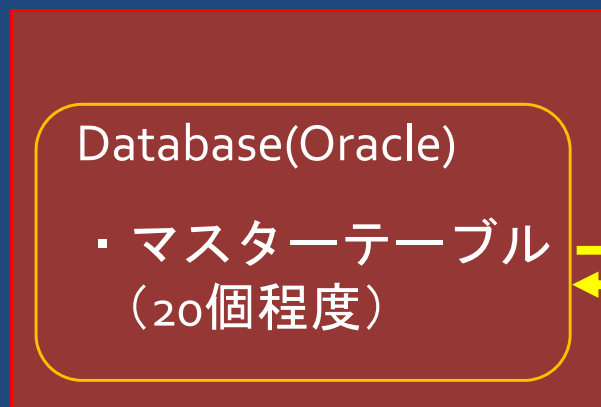
ISRSとIR室が出すデータリクエスト (データが統合管理されている場合)

(出典：藤原宏司，大野賢一 (2015) 「全学統合型データベースの必要性を考える」)

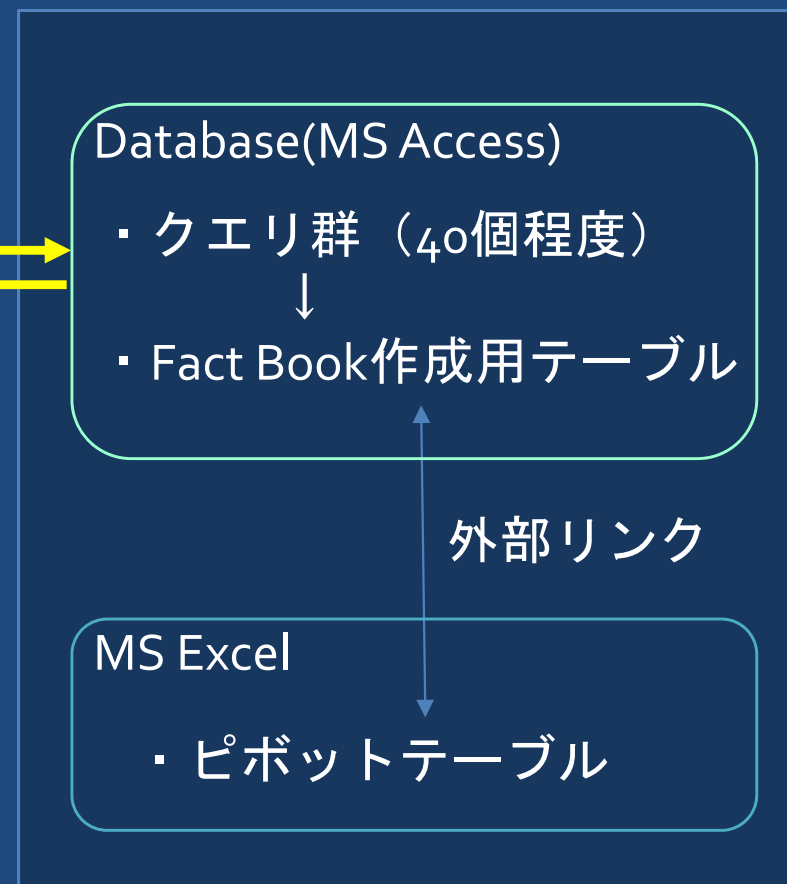
BSU/NTCにおけるFACT BOOKの 作成環境 (③)



ISRS



BSU RD CAPサーバ



ODBC

結果

リクエスト

BSU/NTCにおけるIR業務との 関係



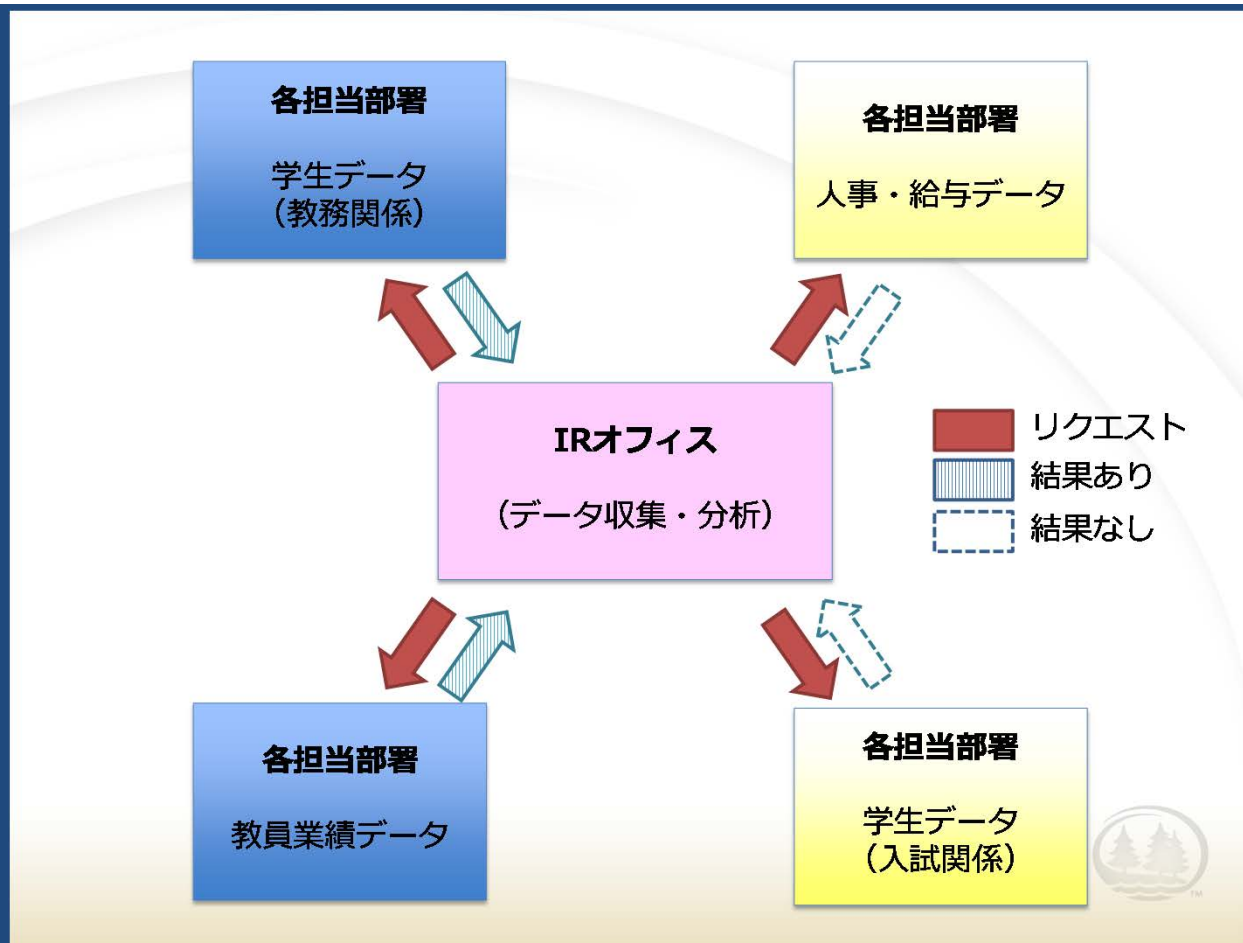
- 執行部も含め、Fact Bookを読める統計リテラシ（？）は持っている
- アドホック業務もほぼルーティン化されている
 - クエリと業務の連携
 - ※ ワークログDBで、リクエストと使用したクエリを管理
 - 送信メールの定型フォーマット

鳥取大学におけるFACT BOOKの 作成環境



- ① 全学統合型データベースはない
- ② ITチームのサポートはほとんどない
- ③ 全てのデータにアクセスできるわけではない
- ④ MS Accessでクエリは作成できる
- ⑤ MS Excelでピボットテーブルは作成できる

鳥取大学におけるFACT BOOKの 作成環境 (①及び②)



IR室が出すデータリクエスト (データが分散管理されている場合)

(出典：藤原宏司，大野賢一 (2015) 「全学統合型データベースの必要性を考える」)

鳥取大学におけるFACT BOOKの 作成手順の検討



- ① 全学統合型データベースは**最初に作らず**、データカタログを作成
- ② **ITチームのサポート体制**を検討
- ③ 可能なところから**各種データを収集し**、MS Accessに蓄積していく
- ④ MS Accessでクエリ（選択クエリ、アクションクエリ）は作成できる
- ⑤ MS Excelでピボットテーブルは作成できる（他にExcel VBAも使えたら良い）

考察



- データベースの運用・管理・保守には、データベースの変更（ITチーム）、データの入力（他部署）等の作業が発生するため、事前に部署間の調整が必要である。
- データベースがなくても、既存のデータを集約できれば、Fact Bookの作成や分析は可能である。これら成果物を提供し続けることが重要。
- データカタログの作成、業務フローのルーティン化を行えば、全学統合型データベースの導入・運用がスムーズとなる。

参考文献



- 藤原宏司・大野賢一（2015）「全学統合型データベースの必要性を考える」, 情報誌『大学評価とIR』, 第1号, pp.39-48.
- 大学評価コンソーシアム（2014）『勉強会：米国におけるIR実践を通して考える日本型IR報告書』（平成25年11月12日実施）.
<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=ir20131112>
- 大野賢一（2015）「データカタログ（試行版）の作成について」, 平成27年度第2回 IR実務担当者連絡会（平成27年10月16日実施）.
<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=irue20151016>